

中枢神経系腫瘍の病理診断に関する分子免疫組織学的研究

1. 研究の対象

開院（1962年）から2030年3月31日まで、国立がん研究センター中央病院において病理学的に検討された、中枢神経系腫瘍（頭蓋内、脊髄に発生した腫瘍）、その頭蓋外に転移した腫瘍、頭蓋外からの頭蓋内への転移した腫瘍の、採取済みの腫瘍標本、残余検体、診療録を対象とします。これらには国立がん研究センター中央病院において生検や手術により採取された検体のみならず、病理解剖時に採取された検体も含まれます。また、国立がん研究センター中央病院以外の施設で採取され、転院やセカンドオピニオン（病理相談外来等）のほか、病理診断コンサルテーション（各施設で病理診断に難渋した症例について、施設外の病理医に診断意見を求めること）のために研究施設に提出され病理学的に検討された標本の残余検体も含まれます。

2. 研究目的・方法

研究の目的と意義：

中枢神経系腫瘍の正確な病理診断に有用なバイオマーカーの同定を目指します。中枢神経系の組織に発生する稀な腫瘍であり、正確な病理診断に資する遺伝子異常や腫瘍形質が十分に解明されていない疾患単位もあり、病理診断の補助や予後の予測に有用なマーカーが求められています。しかし、中枢神経系腫瘍は発生頻度が低い腫瘍であるにも関わらず、多くの種類や亜型が知られています。特に希少症例は膨大な病理組織検体アーカイブを検索しても十分な症例数を集めることが困難であるほか、十分な検体量を確保することが困難な場合もあります。そこで、国立がん研究センター中央病院にて採取された手術検体、生検検体に加えて、病理解剖時に採取された検体や国立がん研究センター中央病院以外の施設で採取され、転院やセカンドオピニオン（病理相談外来等）のほか、病理診断コンサルテーション（各施設で病理診断に難渋した症例について、施設外の病理医に診断意見を求めること）のために研究施設に提出され病理学的に検討された症例を研究対象に含めることで、研究に必要な症例数と検体量を確保し、その組織像、免疫組織化学、および遺伝子的知見を病理学的に見直し、臨床像と対応させます。本研究の成果により、中枢神経系腫瘍の病理診断を補助するバイオマーカーが同定されれば、病理診断の精度上昇や、コスト削減、ターンアラウンドタイム（検体提出から病理診断の報告までの時間）の減少を期待することができます。

研究実施期間：10年間（必要な手続きを経て変更する場合があります）

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：カルテ番号、病理検体番号、臨床経過、病理診断、等

試料：病理標本等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内
で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの
代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先まで
お申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先（研究責任者）：

東京都中央区築地 5-1-1

電話 03-3542-2511, FAX 03-5565-7029

国立がん研究センター中央病院病理診断科 吉田朗彦